

国民民主 こくみんみんしゅ Press

KOKUMIN MINSHU PRESS

国民民主党 国民民主プレス 編集部 〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-1
電話:03-3595-9988 (代表) メール:press@dppf.or.jp URL:https://www.dppf.or.jp

2020年1月号

【連絡先】国民民主党茨城県第5区総支部(浅野さとし事務所)

【国会事務所】
〒100-8981
東京都千代田区永田町 2-2-1
衆議院第1議員会館 406号室
TEL:03-3508-7231
FAX:03-3508-3231

【日立事務所】
〒317-0071
茨城県日立市鹿島町 1-11-13
TEL:0294-21-5522
FAX:0294-21-3014

公式サイト

<https://asanosatoshi.com/>



facebook



～新春対談企画～「日立市の未来を話そう」

小川 春樹 × 浅野 さとし

日立市長 衆議院議員



2020年新春を迎えるにあたり、小川春樹
日立市長との特別対談を実施しました。

日立市の目指す未来(今後の地域振興策、
深刻な医師不足、地域コミュニティ活動、市内
の渋滞緩和策、交流人口対策)について語り
ました。



浅野 さとし 氏

小川 春樹 氏

2期目の抱負について

○浅野さとし衆議院議員

さて、小川市長は昨年の市長選挙で当選され2期目を迎えました。最初の4年を振り返って、改めて日立市の魅力や今後の課題についてどのようにお感じになりますか。また近年は、新庁舎や池の川さくらアリーナの供用開始、ひたちBRTの運行拡大、全天候型子ども向け遊戯施設の開設など、様々なインフラが充実しつつあります。今後の地域振興策についてもお聞かせください。

○小川春樹日立市長

改めまして、国民民主党、そして市民の皆様をはじめ、各方面から力強いご支援を賜り、昨年5月1日に2期目となる市政運営をスタートさせていただきました。私の2期目の船出となった日は、折しも令和という時代の幕開けの日となり、新時代のまちづくりを担う重責に、改めて身の引き締まる思いを抱いています。また浅野議員におかれましても、昨年の国民民主党茨城県連代表へのご就任、心からお祝いを申し上げます。

日立市は、様々な魅力にあふれたまちです。海と山の豊かな自然、そして穏やかな気候はもちろん、北限・南限となる豊富な食材も魅力です。その一方、国内有数の鉱工業都市として発展をしてきた「ものづくりのまち」でもあり、先人たちが連綿と築き上げてきた「ものづくりの歴史と文化」は、今も、まちの中に脈々と息づいています。昨年、日立市は市制施行80周年を迎えましたが、こうした「ひたちらしさ」をこれからも更に磨き、ふるさと日立を誇りをもって次世代へ引き継げるよう、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

一方、全国的に超少子高齢化が進む中、日立市においても、やはり人口減少対策は喫緊の課題です。こうした中、日立市では、子育て支援の更なる充実などにより、「若者に選ばれるまち」を目指し、各種施策を推進しているところです。

中でも、昨年10月には、イトーヨーカドー日立店4階に屋内型子どもの遊び場「Hi タッチランド ハレニコ！」をオープンしましたが、この施設は、子育て世代の皆様から寄せられた「日立市に子どもの遊び場を充実してほしい」という声に応え、整備を行ったものです。オープン以来、多くの方々にご利用いただき、好評の声も多く、大きな手ごたえを感じているところです。

○浅野さとし衆議院議員

「豊かな自然・食材」と「穏やかな気候」は、まさに日立市と県北全体の財産だと思います。私としてもこうした財産を地域の競争力の源泉として磨き、新たな人の流れにつなげていきたいです。また、ものづくりの歴史は市民の皆さんの中にも脈々と受け継がれているように思います。私は、日立市全体でもものづくりの未来をつくっていききたいという思いで、様々な実証試験などに果敢に挑戦し続けていきたいと思っています。



医療人材の確保について

○浅野さとし衆議院議員

一方で、若者に選ばれるまちをめざすには、安心して子育てできる環境が重要です。子育て地域周産期母子医療センターの再開に向けて、日立総合病院が医師確保に取り組む最優先病院に指定されて1年が経過しました。センターの再開には看護師など医療スタッフの充実も必要だと思います。日立地区(県北地区)での深刻な医師不足対策などについて、市長のお考えをお聞かせください。

○小川春樹日立市長

日立市では、地域で安心してお子さんを生み育てられるよう、日立総合病院の地域周産期母子医療センターの再開に向けた取り組みを進めています。

日立総合病院の地域周産期母子医療センターは、平成21年4月以降、医師が確保できず、その機能を休止しています。しかしながら、なんとしても当センターの再開を果たしたい、その強い意志の下、産婦人科医の確保を最優先に、茨城県と日立総合病院とも連携し、関係大学に強く要望活動を続けてきました。茨城県が最優先で医師確保に取り組むべき病院として日立総合病院を指定していただいたこともあり、その結果、昨年4月から、これまでの東京医科大学に加え、新たに筑波大学からも4名の産婦人科医、そして1名の小児科医を派遣いただけることになりました。まさに、センター機能の再開に光が差してきたところです。こうした地域医療体制の充実、働く皆様の安心の土台にもなるものと考えています。引き続き、全力で取り組んでまいりたいと思います。

○浅野さとし衆議院議員

市長もご存知のように、実は茨城県の産婦人科医師の基準数(人口10万人あたりの人数)は、全国最下位の状態が続いているほど人材不足です。このような中、日立総合病院に4名も派遣していただけるというのは、行政の皆さまの相当なご尽力があったのだろうと思います。周辺に住む子育て世代のためにも、この取り組みを応援していきますので、引き続きよろしくをお願いします。

地域コミュニティ活動について

○浅野さとし衆議院議員

日立市コミュニティ推進協議会の発足からまもなく45年となりますが、日立市民の高齢化が進み、コミュニティ活動の担い手不足が多く地域で不安視されているように思います。地域における子どもの見守りや子育て支援、福祉、地域美化、生涯学習事業など多岐にわたる活動を今後も支えていくために、市内のコミュニティ活動の今後をどのように展望されていますか。

○小川春樹日立市長

昨年、茨城県において、45年ぶりとなる国体が開催されました。日立市では、体操・新体操、卓球、バスケットボール、軟式野球、そして本市発祥のパンポンが盛況に開催されるとともに、大会期間中には天皇皇后両陛下がご来訪され、多くの市民の皆様が奉迎、奉送に駆けつけられたことは、まさに日立市における輝かしい歴史の一頁となりました。

国体の成功にお力添えをいただいたのが、コミュニティの皆様です。「花いっぱい運動」や「グリーンアップ運動」など、選手や監督、観客の皆様へのおもてなしに多大なご尽力をいただきました。昭和49年の前回大会の際、全国から訪れる方々を「まちをきれいにしてお迎えしよう」という市民運動が、本市のコミュニティ活動のはじまりでした。45年の時を超えても、このように地域一丸となった「おもてなし」を実施することができましたことは、大変意義深いことで、改めて、日立市のコミュニティ活動は「まちの宝である」と強く認識したところです。

しかしながら、浅野議員もご指摘されているように、人口減少や少子高齢化の進行など、近年の社会環境の変化によって、現在、コミュニティ活動の担い手不足が大きな課題となっています。コミュニティ活動を今後も持続・発展させていくためには、誰もが活動に参加しやすい環境の整備や、NPO等との連携体制の構築など、幅広い分野での取り組みを進めていく必要があります。そのため、今月から、関係者等による委員会を設置して、これからの時代に合ったコミュニティ活動の在り方を検討することとしています。今後も、本市の誇りであり、まちづくりのパートナーであるコミュニティとの連携・協働を深めながら、将来にわたって活力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。

○浅野さとし衆議院議員

一例ですが、毎年コミュニティごとに行われる「敬老会」では、私でもできるだけ準備作業を手伝わせていただく様になっているのですが、若い方々の人手が確保できず高齢者の方々が準備作業をして下さっているコミュニティが多くあります。コミュニティ活動を発展させていくためには市民の協力が欠かせません。新たに設置する委員会での今後の展開に期待申し上げます。

市内の渋滞緩和策について

○浅野さとし衆議院議員

若者支援やコミュニティの発展に加え、慢性的な交通渋滞への対応も重要な課題です。最近ではひたちBRTの開通や山側道路をはじめとした各路線の開通もすすんでいます。抜本的な解消にむけては、南北方向のみならず東西方向の幹線整備や、高速道路の活用なども必要になると思っています。市内の渋滞緩和にむけた市長の考えをお聞かせください。

○小川春樹日立市長

日立市にとって、交通渋滞は積年の課題ですが、暮らしやすいまちづくり、地域経済の活性化、そして子どもたちが担う未来の日立市のためにも、解消に向けた取り組みを全力で進めているところです。

まずは、国や県への要望活動です。幹線道路の整備促進には、国や県への直接の要望活動が極めて有効であり、今年度の国の予算においても、重ねての要望活動が実を結び、国道6号日立バイパスⅡ期事業(旭町から国分町までの南伸)、国道6号大和田拡幅事業(日立南太田 IC から山側道路入口までの4車線化)に対し、昨年度比で実に約2割増となる予算が付けられ、事業が大幅に進むことになりました。さらに、国道245号についても、久慈大橋の4車線化などが決定(新規事業化)され、交通容量の大幅な拡大が期待されます。浅野議員には、国への要望の際、いつも力強いご支援をいただき、本当に感謝をしています。

また、昨年はひたちBRTの大甕駅-常陸多賀駅間の本格運行を開始しました。現在は、日立駅までの第Ⅲ期ルートを検討しているところです。さらに、先進的な交通システムの実現にも取り組み、昨年度のひたちBRTにおける自動運転バスの実証実験、そして今年度実施する「日立地域 MaaS(Mobility as a Service)アプリ」の利用による、デマンド交通とひたちBRTとの円滑なダイヤ接続などを実体験していただくという未来志向の取り組みを進め、移動の利便性を高めるとともに、公共交通ネットワークの強化を図っているところです。

○浅野さとし衆議院議員

まち全体を人の身体に例えるなら、道路というのは身体中に栄養素を運ぶための血管だと思います。まち全体の経済やくらしの健康を維持するためにも幹線道路の整備促進や新しい交通システムの構築には、これからも一緒に取り組ませていただきたいと思います。また、一昨年にはBRTの自動走行実証試験なども行われましたが、市内にはこうした先端技術を開発する企業も数多く存在しています。そうした方々とも連携しながら、渋滞の緩和や利便性の向上を実現していきたいですね。



日立市の観光魅力度向上策について

○浅野さとし衆議院議員

かみね動物園へのパンダ誘致に取組むニュースは、多くの市民の皆さんにとって明るいニュースでした。市内経済の活性化につなげるためにも、今後さまざまな観光資源開発に着手していかれると思います。美しい海と表情豊かな山々に挟まれた日立市だからこそできる観光産業の発展にむけて、市長の夢などがあればお聞かせください。

○小川春樹日立市長

日立市は、海と山の豊かな自然に恵まれ、春のさくら、夏の海、秋の紅葉、冬の夜景と、四季折々の美しい表情が楽しめるまちです。また、かみね公園や奥日立きららの里、そして日立市出身の世界的建築家である妹島和世さんがデザインをした日立駅舎や日立市新庁舎などのスポットも大変人気を集めています。

さらに昨年は「ある町の高い煙突」が全国公開され、「さくらのまち・日立市」のルーツが全国に公開され、こうしたことも交流人口拡大のきっかけとして引き続き活用していきたいと思っています。

そしてご紹介いただきましたように、現在は、茨城県とともにかみね動物園へのジャイアントパンダ誘致に取り組んでいます。昨年11月にも、いばらきパンダ誘致推進協議会として中国を訪問し、誘致にかける熱意を伝え、相手方からも具体的な助言を得るなど、成果をあげることができました。かみね動物園へのジャイアントパンダ誘致は、東北地域、そして茨城県の地域活性化の起爆剤となるとともに、すべての世代の方々に夢や希望を与えられるものと確信をしています。今後とも、茨城県との緊密な連携のもと、誘致活動に全力で取り組んでいきたいと思っています。

○浅野さとし衆議院議員

昨年は小川市長自らが中国まで伝えに行っていたことで、パンダ誘致にむけた熱意も伝わったのではないかと思います。ありがとうございます。実りあるものだった様子を聞いてさらに楽しみにになりました。私にできることとしては、交流人口の増加を受け入れられる環境を整えるための道路インフラや観光インフラ等の整備促進のため、関係省庁とも密に意見交換を重ねていきたいと思っていますので、今後も様々な情報交換をさせていただきます。

2020年の抱負

○浅野さとし衆議院議員

最後に、今年は東京オリンピック・パラリンピックがある年です。選手の皆さんもメダル獲得という目標にむけて頑張っていると思いますが、小川市長の今年一年間の目標や抱負があれば聞かせてください。

○小川春樹日立市長

市民の皆様をはじめ、多くの方々のご支援とご協力により、昨年は市政における重要事業を力強く推進することができた一年となりました。また、昨年は、台風による被害が色濃く記憶に刻まれた年であり、結果として本市では大きな被害の発生には至りませんでした。近隣自治体を含む多くの地域において、河川の氾濫、決壊により甚大な浸水被害が発生し、尊い命が失われました。市民の生命や財産を守ることは、行政の最も基本的かつ重要な責務でありますので、本年は、さらに防災・減災に関する取り組みを進めていきたいと考えています。

また、先ほどお話が出ましたように、本年は、待ちに待った東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。選手の皆さんが目標に向かって頑張っているのと同様に、市民の皆様も、学業、仕事、子育て、スポーツ、芸術などに頑張っていると思いますが、私は、この様々なチャレンジを積極的に応援したいと思っています。全ての市民の皆様に対して、「子どもには“夢”」を、「若者には“輝き”」を、「働く世代には“充実感”」を、そして「シニア・シルバー世代には“生きがい”」を、常に持ち続けていただけるような施策を進めることで、市民一人ひとりが自分らしい生き方を見つけ、夢や目標を実現し、幸せを感じることができるようにしてまいりたいと考えています。

浅野議員をはじめ、皆様には、引き続きましてのご支援とご協力をお願い申し上げます。

○浅野さとし衆議院議員

おっしゃる通り、近年の自然災害は予測が難しいだけでなく大規模化、激甚化しています。安心・安全なまちづくりはもちろん、すべての世代が夢や希望、生きがいを持つことができるまちになるためには、市民の皆さんを中心に、行政、企業、団体等がいま以上に強くつながっていくことが重要になっていくと感じます。日立市の未来に向かって全員が「One Team」となって進んでいけることを期待してやみません。小川市長の引き継ぎのリーダーシップにご期待いたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。

今年も各級議員団が一致結束し、地域活性化を進めてまいります。



浅野さとし 略歴

▶1982年9月生まれ(37歳)、衆議院議員(1期)
(株)日立製作所日立研究所研究員
日立労組研究所支部執行委員
大島章宏 前衆議院議員秘書

